

---

# 遊戯王 信念持ちし殺人鬼

龍賀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 信念持ちし殺人鬼

### 【コード】

N8096Y

### 【作者名】

龍賀

### 【あらすじ】

なのはの世界に飛ばされるはずが神の手違いによって遊戯王GXの世界に・・・この世界では龍斗は自分の信念を貫き通せるのか！

## プロローグ 何事も確認が大事（前書き）

さて、まだ2作品が完結していないのに新たに書き始めました。他の2作が優先なので遅くなるでしょうが、楽しんで頂ければ幸いです

## プロローグ 何事も確認が大事

神に飛ばされ、今は・・・何処だ？ここ。

「すまんのぉ、なのはの世界に送るつもりが遊戯王GXの世界に飛ばしちゃった」

「<sup>バラ</sup>解体すぞ？」

「すみませんでした！！」

どうやら遊戯王の世界らしい。

はぁ・・・遊戯王のカードなんて持ってきてないぞ？

「それは大丈夫じゃ！ワシがお主の前世で使っておったデッキを持ってきたのでな！」

「・・・シンクロとエクシーズは？」

「無論ある！」

なら大丈夫か？いや、別になくても頑張れるデッキはあるが。

『マスター、どうやら試験のようです』

「む？そうか」

コイツはブラックディクロス、まあ今はクロスという愛称で呼んでいい。

転移させられる前に自己紹介をし終えた。

「龍識・・・いや、今は龍斗か、早く行かなければいかんぞい？」

「誰のせいだ誰の・・・後、今は龍識でいい」

最初は記憶を操作しようとしたらしいが、娘にばれて半殺しにされたせいではなかったらしい。  
まあありがたいがな。  
さて、デッキの確認だな。

『遊戯王ですか・・・どのようなデッキを使ってるんですか?』  
「む?ああ、どうやらすぐにしなければならぬらしいからしながら説明する、その方がわかりやすいだろ?」

『そうですね』

「受験番号2番・・・はあ、また中途半端な」

まあいいか。

『マスター』

「何だ?」

『このままですと失格になりますよ?』

「何?」

『後、5分で順番が来ます』

「・・・今から向かえば?」

『恐らく頑張っても10分はかかるかと』

・・・いきなり終わりか?

いや、まだだ。

「いくぞ、いきなり終わりたくはない」

『はい、スタンドですか?』

「いや、今回は転移だ」

『了解』

すぐに転移した。

間に合えばいいが。

「む、君は・・・受験番号2番かな？」

「はい」

「今110番の子が行ったよ、急ぎなさい」

「了解です」

どうやら間に合ったようだ。

よかった。

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！」

どうやら十代のデュエルは終わったらしい。  
なら、

「すいません、受験番号2番、遅刻しました」

「いいです〜ノ、デ〜ワ私が相手してあげル〜ノ」

「・・・了解です」

間違いなく名誉挽回のためだろうな。

さて・・・デッキはこれだから・・・大丈夫だな、たぶん。

さあ、久々のデュエルだ、全力で頑張ろうか。

「<sup>デュエル</sup>決闘!!!」

森 龍斗 LP4000

クロノス LP4000

「ワタシィの先行」

ふむ、手札は・・・微妙だな。

「ワタシは、カードを二枚セットし、大嵐を発動なノ〜ネ」

大嵐

通常魔法（制限カード）

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

黄金の邪神像か。

黄金の邪神像

通常罠

セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、  
自分フィールド上に「邪神トークン」（悪魔族・闇・星4・攻/守  
1000）1体を  
特殊召喚する。

「破壊されたノ〜ワ、黄金の邪神像、よって邪神トークンを二体特  
殊召喚すル〜ノ」

古代の機械巨人か。

効果モンスター

星8/地属性/機械族/攻3000/守3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、  
その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない

「この二体を生贄に、古代の機械巨人を召喚すルゝノデス」

古代の機械巨人が召喚された瞬間、周りから「終わったな」とか「アイツも可哀相に」とか「あの子可愛くね?」とか聞こえてきた。オイ、そのの、俺は男だ。

「ワタシは、カードを2枚セットして、ターンエンド(ワタシイがセットしたのは聖なるバリア・ミラーフォースと奈落の落とし穴なノゝネ、これでワタシの勝利は完璧なノゝネ)」

どうやら相手がフラグを建てたみたいだ。まあいいか。

「では、俺のターン、ドロー!」

ふむ、何とかなるというより・・・これは酷い。

「俺は手札抹殺を発動、互いに手札全てを墓地に送り、送った枚数分ドローします」

手札抹殺

通常魔法(制限カード)

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

周りが馬鹿にしているな・・・交換カードの何が悪いのやら。



「この瞬間！墓地に送られた、スノウ、グラフィア、ブラウ、シルバ、ゴルドの効果発動！」

「なんでス〜ト!?!」

「スノウの効果でデッキから暗黒界と名のつくカードを1枚加える！」

暗黒界の術師 スノウ

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1700 / 守 0

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキから「暗黒界」と名のついたカード1枚を手札に加える。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手の墓地に存在するモンスター1体を選択し、

自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

8

「効果で暗黒界の門を回収！さらにグラフィアの効果でそちらのセツトカード1枚を破壊！」

暗黒界の龍神 グラフィア

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2700 / 守1800

このカードは「暗黒界の龍神 グラフィア」以外の

自分フィールド上に表側表示で存在する

「暗黒界」と名のついたモンスター1体を手札に戻し、墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手の手札をランダムに1枚確認する。確認したカードがモンスターだった場合、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

奈落か・・・ならもう1枚は攻撃反応型かな？

「さらにゴールドとシルバを自身の効果によって特殊召喚！」

暗黒界の軍神 シルバ

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手は手札を2枚選択して好きな順番でデッキの下に戻す。

暗黒界の武神 ゴルド

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手フィールド上に存在するカードを2枚まで選択して破壊する事ができる。

「さらにブラウの効果で1枚ドロー！」

暗黒界の狩人 ブラウ

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1400 / 守 800

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらにもう1枚ドローする。

周りがざわざわ言っている・・・これくらいで慌てるなよ。

「さらに！俺は暗黒界の取引を発動！互いにドローしその後、一枚墓地に送る！」

暗黒界の取引

通常魔法

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローし、その後手札を1枚選択して捨てる。

「効果でもう1枚のグラフィアを墓地へ、よってもう1枚のセットを破壊！」

やはり聖バリか・・・危なかったな。

「すいませんが・・・このターンで終わらせませす！」

「なんデス〜ト!？」

「俺はさらに暗黒界の門を発動！」

暗黒界の門

フィールド魔法

フィールド上に表側表示で存在する

悪魔族モンスターの攻撃力・守備力は300ポイントアップする。  
1ターンに1度、自分の墓地に存在する

悪魔族モンスター1体をゲームから除外する事で、  
手札から悪魔族モンスター1体を選択して捨てる。

その後、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「効果によつて墓地のブラウを除外！手札のブラウを墓地に送りドロー！さらにブラウの効果でもう1枚ドロー！」

これで大丈夫かな？

「墓地のグラフィアの効果！場のグラフィア以外の暗黒界と名のつくモンスターを手札に戻し、このカードを墓地から特殊召喚する！」

暗黒界の龍神 グラフィア

攻3000

「何故攻撃力が上がってルノ!?」

「門の効果により、悪魔族は攻撃力が3000アップします」

「なんでスート!?」

よし、これで墓地の闇属性は3枚になったな。

「墓地に闇属性のモンスターが3体いる事によつて、ダーク・アイムド・ドラゴンを特殊召喚！」

ダーク・アイムド・ドラゴン

効果モンスター（制限カード）

星7 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2800 / 守1000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の闇属性モンスターが3体の場合のみ特殊召喚する事ができる。

自分のメインフェイズ時に自分の墓地の闇属性モンスター1体をゲームから除外する事で、フィールド上のカード1枚を選択して破壊する。

「ダムドの効果発動！墓地の闇属性を1枚除外し、フィールド上のカード1枚を破壊！対象は古代の機械巨人！」

ダムドが腹の部分の武器を放ち、古代の機械巨人が破壊される。

「ノ〜ウ、ワタシの古代の機械巨人ガア〜！？」

この時点で終わりだが・・・まだ行動できるので行動する。

「さらに俺はグラフィアをもう1体特殊召喚する！」

これでゴールドとシルバの両方が戻ったな。

「門を張替え、さらに効果で墓地のスノウを除外、ゴールドを墓地に捨て、ドロー！ゴールドを効果で特殊召喚！」

暗黒界の取引か。

「取引を発動！効果は・・・わかってますよね？」

「グヌヌ」

「俺は効果で1枚ドロし、シルバを墓地に送る……よってシルバを特殊召喚！」

これで場が埋まった。

グラフィア	攻30000×2
ダムド	攻28000
ゴールド	攻26000
シルバ	攻26000

計14000か……オーバーキルにもほどがあるか。

クロノス先生なんて、顔が真っ青だしな……いや、真っ白か？

「全員で直接攻撃！」

「ペペロンチ〜ノ〜」

LP4000 LP-10000

「ありがとうございました」

「ガックシ」

ふむ、久々だが……引きがよかったな。

この調子だとライイエローかな？

そう思いながら俺はこの場を後にした。

## プロローグ 何事も確認が大事（後書き）

今回から始めました遊戯王！

龍「オリカはまだ完全に調節できていないため、今回は暗黒界だ」

ストラクのおかげで強くなりましたからね。

龍「お前の知り合いは「暗黒界なんて滅んでしまえ」とか言ってたな」

まあ何せ手札抹殺さら大量展開だもの、仕方ないね！

龍「そんな知り合いはラヴァルだったな」

爆発や炎熱伝導場は卑怯だと思っんだ。

龍「確かにな、一気に墓地肥やしからの大量展開だからな」

ラヴァル怖い。

龍「まあ・・・お前はカラクリや暗黒界、遊星もどきやリクルエクトで遊んでるだろ？」

うん。

龍「ドッコイドッコイだ」

・・・そうだね。

龍「さて、次回の更新はいつになるかわからん、ネギまの方が更新し終わったら投稿予定だ」

なので気楽に気長にお待ち下さい。

龍「もしかしたら早くなるかもだしな」

では！また次回！！

龍「ではな」



## 第1話 予想外な事は案外すぐに起きる(前書き)

はい、遅くなりましたが第1話です。

残念ながら決闘はしません。

次で行けたらいいなあ〜と思ってます。

今回で原作キャラに会います! まあ想像はつくと思いますが。  
それでは! どうぞ!

## 第1話 予想外な事は案外すぐに起きる

さて、あの試験も終わり今は船に乗っている。  
俺は何故かオシリスレッドだった。  
別に構わないんだが。

『恐らくマスターが試験で頑張りすぎた結果だと思えますが？』  
「あれはあの引きが悪い」

俺だつてあそこまで回るとは思わなかつたんだよ。  
久々だったからな、あのデッキを回すのは。  
他のデッキも渡されたから色々試してみよう。  
どうやらシンクロを使っても大丈夫そうだし。

「お〜い」  
「ん？」

クロスと話し込んでいると、あの時の俺の前に決闘していた少年が  
現れた。

一応名前は知っているが、

「君は？」  
「俺か？俺は遊城十代っていうんだ、よろしくな！」  
「ああ、俺は……」

どちらで名乗るべきか……森か零崎か。

『（マスター、零崎でいいと思います、別に有名ではありませんで  
しょうし）』

「零崎龍識だ、龍識でいい」

「じゃあ俺も十代でいいぜ！」

本当に元気だな。

「で？用件はなんだ？まさか自己紹介だけではあるまい？」

「ん？おう！俺と決闘してくれ！あの決闘観てたらワクワクしてきたんだ！」

原作でも決闘好きだったはずだが・・・まさしくその通りだな。

「ここでは無理だ、あっちに着いたらな、同じレッドなんだからいつまでできるだろ」

「そうだな！なら楽しみにしておくぜ！」

「ああ、俺も全力で相手しよう」

「その話・・・俺も混ぜてくれないか？」

十代と決闘の約束をしていると、ライイエローの服装のやつが来た。  
コイツは・・・

「ん？アンタは？」

「俺の名前は三沢大地だ、よろしくな、2番と1番」

何故俺を見て1番という？

・・・クロノス先生を1ターンキルで倒したからか？

「俺の名前は零崎龍識だ、番号で呼ばれる筋合いはない」

「俺には遊城十代って名前があるんだ、十代って呼んでくれよな」

「ああ、すまないな、十代、龍識」

どうやら実技試験を観ていたらしい。  
まあ終わったら観るやつは多いしな。

「で？三沢も決闘か？」

「ああ、俺も君と戦いたくてね、もし君用のデッキが出来たら相手してくれるかい？」

「別に構わない、その時は全力で相手する」

どんどん増えてくるな。

まあ望む所だが。

というより・・・何故だろうが、三沢が後半になると空気になる気がする。アニメの方だとなつてた気がするし。

「もうそろそろ着く、また今度会おう」

「ああ」

「おうー」

どうやらもう着いたらしい。

さっそく降りるか。

「いくぞ、十代」

「ああ、くう〜！一体どんなやつがいるんだろうな！楽しみだぜ！」

さすが決闘馬鹿だな・・・無論褒め言葉だが。

『（マスター、神から新しいデッキが届いているみたいです、寮のマスターの部屋においてあるみたいです）』

「（そうか・・・変なデッキでなければいいが）」

まあ・・・楽しみにしておくか。

「お〜い！龍識！早く来いよ！」

「ああ、今行く」

さて、レッド寮に向かうか。

『まあ・・・住めば都といえますし』

「おい、それは励ましか？」

今日の前にレッド寮がある・・・予想外だな。

まあ・・・嫌いじゃないけどな、こついう場所は。

「さて、俺の部屋は・・・十代の横か」

何ともご都合主義だな。

『デッキとカードを確認しましょう』

「そつだな」

十代とも約束しているしな。

そつ思い、部屋に入った。

予想以上に綺麗だったのは驚きだ。

部屋は平均的な家のリビング並み・・・大体10畳くらいか？  
にベッド+机があるな。

うん

「十分だな」

『そつですか？』

「ああ、それよりも」



叫ばれた・・・そんなに俺は女顔か？

『（確実に女顔ですよね）』

「（後で話しな？クロス）」

『（スイマセンデシタ）』

「（遅すぎたな）」

『（アッー）』

さて、うるさいのは何とかなったから十代と一緒に向かうか。

「じゃあ行くぞ、十代、翔」

「おう！（ハイッす！）」

まあ万条目がいるだろうから・・・さっそく試すか。

そう思い、デッキを入れて十代の言う決闘場に向かった。

第1話 予想外な事は案外すぐに起きる（後書き）

後書きコーナー！！

龍「遅い、何をしていた」

構成の練り直し+EXVS

龍「・・・仕方ないと思ったらコレか」

すみません。

龍「・・・感謝コーナー」

白夜様、ユタ様、感想ありがとうございます！

龍「まだまだ未熟ながら頑張っている、と思っている、遊戯王のプレイングも勉強していくので気長に、気楽に待っていてくれ」

次はネギま更新予定です！

龍「ではな」

ではでは！



第2話 男の娘？否！断じて否！俺は男だああああ！（前書き）

サブタイトルはあれです。

気にしないで下さい。

最近無駄に荒んできたんで余計にふざけたくなっただけです。

後、今回の決闘ですが、はっきり言うと、穴がありすぎます。

なので指摘していただけると嬉しいです！

それでは！ゆっくりしてってくださいな。

## 第2話 男の娘？否！断じて否！俺は男だああああ！

デッキを改良するために先に十代を行かせたんだが・・・失敗だったか？

いきなり喧嘩売られたんだが・・・。

『（マスターの人徳ってやつですね）』

『（・・・潰すぞ？）』

『（スイマセンデシタツ！！）』

まったく・・・で、今は歓迎会のために一回レッド寮に戻る所だ。万丈目達との会話？

確か・・・、

「そのレッド、貴様も戦え！」

「は？」

「まさか万丈目さんの誘いを断るんじゃないだろうな！」

「別に構わないが・・・歓迎会がもうすぐで始まるからその後でな？」

「フンツ！ならばその時に自分のフェイバリットカードを持ってくるんだな、負けたらそのカードをもらおう！」

「・・・いいだろう、では後で」

という感じだったか？

十代はすまなさそうにしていたな。

何でも、俺が此処に来ようとしなければ・・・とか何とか。

だから俺は大丈夫だ、気にしていないし、負けなければいいだけだ、とっておいた。

さて、少しダイジェストになったのは謝罪しよう。

だが今は歓迎会の真っ最中・・・食事に専念させてもらおう！  
腹が減っては戦はできぬ！だからな。

『（マスターの天然度が酷い気がします・・・）』

食事は大分満足した。

あのエビフライは美味しかった・・・まあ十代と取り合いになった  
が。

「さて、今回はどのデッキでいくかな？」

『決めてなかったんですか！？』

「ああ、どのデッキも信頼しているからな・・・ならどのデッキだ  
ろうと全力で挑むだけだ」

そう言うと、デッキの一つが光った気がした。

「ふむ、どうやら今回はこのデッキで行く事になりそうだ」

『どうしたんですか？』

「いや、このデッキが一瞬光った気がしてな・・・ならこの子で行  
くぞ」

『そうですか・・・』

さて、デッキも決まった・・・万丈目を倒しにいくか。

「フン、きたか」

「ああ、一応約束なんですね」

こっちに向かう前に十代と翔の2人と合流し、この決闘場に向かっ  
た。

どうやら十代も喧嘩を売られていたらしい。  
そこは原作通りみたいだな。

「だがお前の相手は後だ、まずはそのレッド！貴様からだ！」  
「俺？いいぜ！その勝負乗った！」

はぁ・・・じゃあ俺はそれまで暇なんだろうか？

「万丈目さん！こんなやつ万丈目さんが相手するまでも無いですつて！自分で十分です！」

「・・・なら相手でもしている」  
「はい！」

どうやら暇ではなくなったらしい。

「はぁ・・・お前が相手でいいんだな？」  
「ああ！レッドの落ち零れ共に万丈目さんは構っている暇はないんだ！」

その割に暇そうだが？

「さあ行くぞ！決闘！！」  
「決闘！」

龍識 LP4000

ブルー生徒A LP4000

「俺からいくぞ！」

どうやらあつちが先攻みたいだな。

「俺は切り込み隊長を攻撃表示で召喚！」

切り込み隊長

効果モンスター

星3 / 地属性 / 戦士族 / 攻1200 / 守400

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、  
相手は表側表示で存在する他の戦士族モンスターを攻撃対象に選択  
する事はできない。

このカードが召喚に成功した時、

手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

切り込み隊長・・・戦士族デッキか。

「さらに切り込み隊長の効果でミスティック・ソードマンLv4を  
特殊召喚！」

ミスティック・ソードマンLv4

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1900 / 守1600

このカードを通常召喚する場合、裏側守備表示でしか出せない。

裏側守備表示のモンスターを攻撃した場合、  
ダメージ計算を行わず裏側守備表示のままそのモンスターを破壊す  
る。

このカードがモンスターを戦闘によって破壊したターンのエンドフ  
ェイズ時、

このカードを墓地に送る事で「ミスティック・ソードマン Lv6」  
1体を

手札またはデッキから特殊召喚する。

やはりか。

だがLvモンスターは高級ではなかったか？  
まあいいか。

「さらにカードを1枚伏せ、ターンエンド！」

俺のターンか・・・うまく回るかな？

「ドロー！」

手札は・・・ふむ、今は様子見かな？

「俺はシールド・ウイングを守備表示で召喚、カードを2枚セットし、ターンエンド！」

シールド・ウイング

効果モンスター

星2 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻 0 / 守 900

このカードは1ターンに2度まで、戦闘では破壊されない。

これで大丈夫だといいいんだが。

「俺のターン！俺はもう1体の切り込み隊長を召喚！効果によってもう1体の切り込み隊長を召喚する！」

切り込みロックか・・・切り込み隊長の効果のせいで互いに庇う事になり、結局攻撃する事ができないんだったか？

なら何故前のターンにしなかった？

「こいつらで攻撃だ！」

「シールド・ウィングの効果！このカードは1ターンに2度まで戦闘によって破壊されない！」

「なら3体目の切り込み隊長で攻撃！」

「くっ！」

破壊されたか……。

「ミスティック・ソードマンで攻撃！」

「トラップ発動！ガード・ブロック！」

ガード・ブロック

通常罠

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドロウする。

「このカードの効果により、戦闘ダメージを0にし、1枚ドロウ！」

「くっ！なら俺はカードを1枚セットしてターンエンド！」

ふむ、攻めるか。

「俺のターンドロウ！」

これは……ナイスタイミングだな。

「俺は手札からレベル・ステイラーを墓地に送り、クイック・シ

ンクロンを特殊召喚！」

クイック・シンクロン

チューナー（効果モンスター）

星5 / 風属性 / 機械族 / 攻 700 / 守 1400

このカードは手札のモンスター1体を墓地へ送り、

手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「シンクロン」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とする事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「シンクロン」と名のついたチューナーをシンクロ素材とするモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「さらに墓地のレベル・ステイラーの効果発動！」

レベル・ステイラー

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻 600 / 守 0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

「効果によってクイック・シンクロンのLvを1つ下げて特殊召喚！」



クイック・シンクロン L V 5 L V 4

「L V 1のレベル・ステイラーにL V 4のクイック・シンクロンをチューニング！」

「チューニングだと!？」

ついでにいうと補足になるが、この世界ではシンクロは普及しているらしい。

まあ高級なせいであまり広まってないらしいが。

「集いし星が新たな力を呼び起こす、光差す道となれ!シンクロ召喚!出でよ、ジャンク・ウオリアー!」

ジャンク・ウオリアー

シンクロ・効果モンスター

星5/闇属性/戦士族/攻2300/守1300

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、

このカードの攻撃力は自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力の合計分アップする。

「ふ、フン!シンクロ召喚をしてくるのは驚いた・・・けど俺の切り込み隊長の効果で攻撃できないぞ!」

「そんなものは分かっている・・・俺はさらにジャンク・ウオリアーのL Vを1つ下げ、レベル・ステイラーを特殊召喚!」

ジャンク・ウオリアー L V 5 L V 4

「さらに俺はジャンク・シンクロンを召喚!効果によりシールド・

ウイングを特殊召喚する！」

ジャンク・シンクロン

チューナー（効果モンスター）

星3 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1300 / 守500

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する

レベル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

「Lvが4になったジャンク・ウォリアーとLv1のレベル・ステイラーにLv3、ジャンク・シンクロンをチューニング！」

「ま、まただと!？」

「集いし闘志が怒号の魔神を呼び覚ます、光さす道となれ！シンクロ召喚！粉碎せよ、ジャンク・デストロイヤー！」

ジャンク・デストロイヤー

シンクロ・効果モンスター

星8 / 地属性 / 戦士族 / 攻2600 / 守2500

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、

このカードのシンクロ素材としたチューナー以外のモンスターの数まで

フィールド上に存在するカードを選択して破壊する事ができる。

「デストロイヤーの効果！シンクロに使用したのは2枚！よって2枚のカードを破壊する！破壊するのは切り込み隊長を2枚だ！タイダル・エナジー！」

「なっ!?!」

切り込み隊長が破壊される・・・これで攻撃が可能になった。

「さらに手札から死者蘇生を発動!」

死者蘇生

通常魔法（制限カード）

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「俺はジャンク・シンクロンを蘇生する!」

「なっ!?! 攻撃力が2000以上のモンスターを2体だと!?!」

何故そんなに驚くのか。

「まずはジャンク・デストロイヤーで切り込み隊長に攻撃!」

「伏せカードオープン! 聖なるバリア・ミラーフォース! ハハハ!

これでお前の負けだ!」

「残念、お前の負けだ」

「何!?!」

「俺はこの瞬間にトラップ発動! スターライト・ロード!」

スターライト・ロード

通常罫

自分フィールド上に存在するカードを

2枚以上破壊する効果が発動した時に発動する事ができる。

その効果を無効にし破壊する。

その後、「スターダスト・ドラゴン」1体を

エクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

「このカードの効果により、聖なるバリア・ミラーフォースは無効、さらに俺はスターダスト・ドラゴンをエクストラデッキから特殊召喚する！」

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ

魔法・罫・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、

この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「あ・・ああ」

「そのまま戦闘を続行！いけ！ジャンク・デストロイヤー！デスト

ロイ・ナツクルー！」

「くっ！」

ブルー生徒A LP4000 LP2600

「さらにジャンク・ウォリアーでミスティック・ソードマンに攻撃！スクラップ・フィスト！」

「がつ！」

LP2600 LP2200

「スターダスト・ドラゴンでとどめ！響け！シューティング・ソニック！」

「うわあああああああああ！！？」

LP2200 LP300

ふう・・・無事終わったか。

引きはまあまあよかったから何とかだった。

「そ、そんな馬鹿な・・・何でオシリス・レッドのやつに・・・」

「そうやって見下してる間は勝てはしないさ・・・本気で勝ちたいなら見下すのをやめておけ」

「くそおおおおお！」

はあ・・・オベリスク・ブルーはこんなやつばつかなのかねえ？

『（少なくとも一人二人くらいならまともな人はいるのでは？）』

「（いるといいがな）」

さて、十代は・・・

「おっ！龍識も終わったんだな！」

「ん？終わったのか？」

「おう！最後に明日香が入ってこなきゃ勝てたけどな！」

「・・・最後に引いたのは？」

「ん？死者蘇生だけど？」

どうやら原作通りだったみたいだ。  
だが、

「融合HEROは融合以外では召喚できないぞ？」

「げっ！？マジで!？」

「確認してみる」

「・・・本当だ、って事は俺負けてたのか？」

「いや、死者蘇生で他のモンスターを蘇生すれば耐える事ができたからな、まだわからなかったさ」

まああれだ。万丈目のデツキは地獄<sup>ヘル</sup>デツキのはずだからな。

基本デメリットが多かったり微妙に使いづらい所もあるからな。

さて、帰るか。

十代と翔と一緒に寮に戻った。

明日香？会ったが、女と間違えられた上に性同一性障害と思われた。

・・・泣くぞ。

とりあえず男だという事を徹底的に教えた。

主に洗脳みたいになった気がしないでもないが、男と認めたのでよしとする。

第2話 男の娘？否！断じて否！俺は男だああああ！（後書き）

後書きコーナー！

龍「殺す」

ひい！？

龍「貴様は潰す・・・全力でだ！」

し、仕方ないじゃないか！！

鬱病＋バーンアウト症候群ぽかったりするんだもの！！

龍「バーンアウト・・・確か燃え尽き症候群だったか？」

うん。今日授業で習ったんだけどさ、症状が今の自分だったという・・・。

龍「そうか、さて、感謝コーナーだ」

いたわって！？

え、えっと、ケルベルス様、感想ありがとうございます！

龍「次は東方かネギま・・・おそらくネギまより東方を少しだけ優先するかもしれん、まあいつもと変わらないさ」

では！また次回！！

龍「ではな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8096y/>

---

遊戯王 信念持ちし殺人鬼

2011年12月14日23時50分発行